【案】

会議名	令和6年 第4回外部評価委員会
日時	令和6年9月2日(月)18:00～20:30
場所	全員協議会室
構成員	壬生委員長、掛谷副委員長、小坂委員、藤田委員、木村委員 【事務局:政策共創室長 御坊谷、主幹 太田、総括主査 大家、主査 射場】
出席者	○「観光の振興(501)」 松下未来創生部長、石本まちの活力創造課長、永井課長代理、目崎主事 廣谷道路公園課長、増谷課長代理 ○「都市基盤の形成と維持管理(510)」 南都市整備部長、廣谷道路公園課長、増谷課長代理
<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 開会あいさつ ヒアリングの進行順序等 施策のヒアリング <ul style="list-style-type: none"> ○観光の振興(501) ○都市基盤の形成と維持管理(510) 判定区分等についての協議 その他 <p>【要旨】</p> <ol style="list-style-type: none"> 開会あいさつ <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の出席は、現時点では委員定数5名に対して4名。阪南市外部評価委員会条例第5条第2項の規定によって本日の会議は成立していることを報告。委員1名から遅れてくるという連絡あり。 ・本日の配付資料について。資料は会議次第。資料AからDとして、外部評価実施要領。外部評価(ヒアリング)出席者名簿。資料で付番していないが、観光施策に関するイベントチラシ等。また当日資料として、委員から預かりの当日質問。 <ol style="list-style-type: none"> ヒアリングの進行順序等 <p>委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案件2 ヒアリングの進行順序等について事務局から説明を。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、施策の主担当課から、施策の概要を説明。説明者は、事前に当局が提供した質問票の回答を踏まえ、簡略かつ適切な説明に心がけ、5分を目途に説明を終了していただきたい。なお、説明時間5分を経過したときにベルを1回、さらに2分経過したときにベルを2回鳴らす。 ・次に、説明終了後、30分の質疑応答を設定。質疑応答時間の終了5分前にベルを1回、30分経過したときにベルを2回鳴らす。質疑応答の終了後は説明者が退席し、後続案件の説明者は速やかに入 	

室をお願いする。

- ・施策1のヒアリングの途中で施策2の説明者が入室する。
- ・阪南市外部評価実施要領に基づき、施策のヒアリングは公開するが、判断区分等についての協議については、非公開。

3. 施策のヒアリング

○観光の振興(501)

委員長

- ・観光の振興 501 について、未来創生部まちの活力創造課から説明を。

まちの活力創造課

- ・観光の振興について説明。
- ・観光の振興は、市の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることで地域の活性化につなげる施策。
- ・本市は、海や山などの自然をはじめ、歴史や文化。特にカキ、日本酒、なにわ黒牛といった食の特産品などの観光資源。また、四季折々の行事、イベントなどが存在しているが、市の認知度が低く、情報発信やプロモーションを積極的に進めていくことが課題。その中で関西国際空港から近いという優位性を生かし、大阪・関西万博を見据え、食や自然、文化を生かした本市ならではの観光コンテンツの創出。広域連携を生かしたプロモーションや周遊ルート設定を進めているところ。
- ・背景として、令和4年度の近畿運輸局が実施する観光まちづくりコンサルティング事業に本市が選定。京都外国語大学の吉兼特任教授を筆頭とするアドバイザー会議メンバーから、観光地域としての課題や観光振興に有効と考えられる資源施設などを分析評価していただいた。その中で方向性は、魅力的な地元食材を切り口にした阪南ガストロノミーツーリズムの展開、自然環境、地域の自然を生かした体験コンテンツの造成ではないかとのアドバイスをいただき、取組を進めてきたところ。
- ・指標の進捗状況について。ONE ACTIONとして、市や商工会、観光協会などが主催する各種イベントの参加者総数。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、潮干狩り、海水浴場など多くのイベント開催を見送った。令和5年度は、感染症の法上の位置付けが5類に移行したことにより、順次各種イベントを再開。大幅に実績値が増加。しかし、潮干狩りの開催の見送り。また海水浴場の来場者数がコロナ禍前を下回る状況などにより、目標値を下回ったと考えている。
- ・同年度の施策の達成状況について。主に観光庁の補助事業を積極的に活用して、カキや日本酒、なにわ黒牛といった食を切り口に、新たな観光コンテンツの開発やイベント実施を行ったところ。具体的には、大阪市内や阪南市内の事業者と連携して、本市の食材を広くプロモーションすることを目的とした阪南ガストロノミーマンスの実施。市役所周辺で開催した阪南グルメEXPOは約5,000名の集客。阪南市観光協会や泉佐野市、岸和田市、KIX泉州ツーリズムビューローなど各関係機関と連携して、大阪湾や葛城修験などに周遊コースを設定。以上のように地域の魅力ある観光資源を生かした広域的な観光振興を図ってきた。インバウンド向け映像コンテンツの制作配信等、インフルエンサーによるSNS発信などにも注力。
- ・西日本で唯一のすだて遊び体験の販売やPRに努め、マスメディアにも多く取り上げられたため、販売拡大につながった。ただし、それ以外のコンテンツは、売上げが伸びているとは言えない状況。観光庁の補助事業を活用して造成する新たなコンテンツを含め販路拡大が課題。
- ・本施策の内部評価に関して。内部評価としては★2。コロナ禍の影響により、成果指標に掲げている

指標が未達成のものがあるが、昨年度は、観光庁の補助事業の積極的な活用。大阪関西万博やインバウンド需要の回復を見据えた取組を積極的に進めたと評価した。説明は以上。

【質疑応答】

委員長

・それでは、順に質問していく。

副委員長

・4番と5番について追加質問。

・4番、各種イベントの参加者総数の集計について。令和2年度以降に実施を始めた新たなイベントや市域外のイベントはカウントしていない。それはなぜか。ニーズが変わってきたため、現時点での数値で問題ないのか。それとも方法を変える必要があるということか。

・5番。コロナ禍の影響について、他の説明と不整合という気がした。天候の影響について、例えば令和5年度は天気が悪かったかどうかのデータを集計しているのか。

まちの活力創造課

・4番の指標は、平成31年度に実施したイベントをベースとしている。その理由は、過去から経年変化を見るため。具体例として、「めっさ旨い！阪南うまいもんプロジェクト」は平成31年に終了しているが、令和2年度以降は「0」と計上。対象イベントを選定した経緯は現時点では不明。

副委員長

・経年比較という意味では納得できる。新しく実施したイベントの参加者数は別途集計しているという理解でよいか。

まちの活力創造課

・そのとおり。

道路公園課長

・5番について。天候による集計は数字としてはしていないが、感覚として土日の天気に左右されると思っている。詳細は把握していないが、過去の例から、天候が大きな要因と当課では考えている。コロナ禍の影響については、令和4年に一旦警戒が薄くなったが、令和5年に再び流行し始めるなど波があったと思っている。

副委員長

・質問ではないが、4番にしても5番にしても、食に注力して伸びているという話。全体的に力を入れるのは、財政的にも難しくなる。どこに注力していくかを見ていくために、参加者数の増減の要因などをきちんと分析していただきたい。

委員長

・先ほどと関連して質問。わんぱく王国について、その利用者数がコロナ禍が原因で目標達成できないとのことだったが、工夫やアイデア、取組の具体例などはあるか。

道路公園課長

・コロナ禍の前は、地元の野菜や海産物をわんぱく王国内で不定期で販売していた。自治会には、指定管理の中で稼ぐ方法を考えていただきたいと相談している。地元の野菜の販売などもその一環と考えている。今後、自治会の方や指定管理者と相談していきたい。

まちの活力創造課

・わんぱく王国の取組に関連して。令和6年度になるが、関空から最も近い桜まつりとして、インバウンド向けになるが、イベントを実施。令和6年4月2日から6日間、なにわ黒牛やカキといった食を楽しんでいただくコンテンツとした。抹茶体験といった文化協会に協力していただくようなイベントを実施。その他にも、夜は夜桜を初めてライトアップした。実際の声として、京都などでは非常に人が多くゆっくりと花見もできないがある中、ゆったりと桜を楽しめるというニーズを組み込んで実施。このような取組をまた進めていきたいと考えている。

委員長

・このような面白そうなアイデアをいろいろ出しながら、取組が進められればと感じた。

委員

- ・8番から10番質問したが、その番号に対してというよりは全体についての質問。
- ・観光に関してのターゲットは、実際どの辺りのニーズを意識しているのか。先ほどの話ではインバウンド向けと理解しやすかったが、それ以外はどうなのか。例えば、匠のippinもにぎわっていたのは初期だけのイメージ。来客数などが気になるため回答していただきたい。
- ・ガイドブック「ゆるりはんなん」を匠のippinでいただいた。若者が見ても他市の方が見ても分かりやすく目に留まりやすくて素敵だとは思ったが、どこに設置しているのか。他市町村、他府県、関西空港などどこに設置しているのかを教えてください。

まちの活力創造課

- ・観光施策のターゲットについて。まず、観光施策を通して様々な観光資源を広くプロモーションすることにより、阪南市の関係人口や交流人口を増やしたいと考えている。その中には子育て世代が大きなターゲットの一つ。自然や子育てのしやすさを感じていただいて、移住定住につながるようなと思って施策を展開。一方、観光の促進によって地域での観光消費を促進したいという側面もある。回復しつつあるインバウンドをメインターゲットとし、観光消費促進のために、コンテンツの単価を高単価に設定。主にアジアの方が泉州地域に多く訪れる傾向がある。そのような方々をきちんとターゲットにしていきたいと考えている。
- ・匠のippinについて。昨年の10月にオープンして以来、市としても地場産品を広くプロモーションする支援をしているところ。観光コンテンツを造成する際、その一部に位置付けや匠のippinの魅力ある産品に触れて、お土産にさせていただくツアーの造成をしている。
- ・「ゆるりはんなん」の設置場所について。設置場所は匠のippinやせんなん里海公園、市内の飲食店、阪南国際ホテル。今回パンフレットをビジュアル重視にしたのは、阪南市の認知度を高める目的。その目的だったが、まずは手に取っていただくことを目的に作成。イベント実施の際、パンフレットでは邪魔になってしまうおそれもあるため、ハクセンシオマネキのカードも用意。

委員

・素敵なパンフレットなのに、阪南市外にはほぼ出してないのか。

まちの活力創造課

・梅田のみちまちスクウェアで置いている。先日ではリーズスクエアで、商工振興のイベントを実施した際に配布。

委員

・関西空港や近隣のホテルなどに設置依頼の予定は。

まちの活力創造課

・現在はこのパンフレットは置いていないが再考する。先ほどの桜フェスについて、チラシの配布をホテルに打診したこともあった。

委員

・パンフレットがターゲット層の利用する宿泊施設に設置されればと感じた。インバウンドでどこに行こうか悩んでいる人も多いため、目にかかる場所への設置は重要と考える。日高町や湯浅町のパンフレットを岩出市や大阪で見かけて足を運んだことがある。ターゲット層の目に触れる機会を作るのは重要。

委員長

・個人的なエピソードになるが、関空から搭乗する前に、近隣のホテルに何度か宿泊したことがあり、ロビーに様々なパンフレットが並んでいた。それらを見ていると、ホテルの人が案内してくださったことも多い。様々なホテルの人とやり取りをすれば、何乗にも効果が出てくるのではないかと。

委員

・「ゆるりはんなん」を初めて拝見したが、興味の沸く内容だと思った。インバウンド対応であれば、関空近隣のホテル、和歌山市のホテルに設置していただくのも良いのではないかと。
・6番、7番について追加質問。
・6番。製菓工場について、今後の方向性などはあるのか。他の都道府県では、製菓工場の見学も観光客にとって大きなイベントになっていると思うが、その辺りの提案や対応は。

まちの活力創造課

・6番、製菓工場について。令和6年の取組になるが、空港までの近さを活かし、出国直前の隙間時間を、「思い出づくり・観光消費ラストミニッツまで日本文化に触れ、日本を遊び尽くす食べ尽くす体験造成事業」として現在、ツアーを造成している最中。午後に尾崎別院で地産地消の和食を楽しんでいただく他、文化協会の協力で書道やお抹茶などの体験を楽しむツアーを考えているところ。ここへの組み合わせとして、浪速酒造、月化粧ファクトリーの工場見学等を取り入れていくことを考えている。インバウンドに阪南市を楽しんでいただく工夫をしているところ。「ゆるりはんなん」の10ページにQRコードがあり、直接、ファクトリーの情報にアクセスが可能のため、その辺りからもPRしたい。

委員

・7番、わんぱく王国への具体的な動員施策について。桜フェスティバルは非常に有効な策と思ったが、桜の時期だけであり短期なのがネック。年間を通じたわんぱく王国の活用や取組をどのように考えているか。小学生の訪問に対する施策は考えているのか。みさき公園の閉園もあり、それに代わるということではないが、子供の喜ぶようなものが望ましいのではないかと。できるかは別だが、設備投資を行いながら、その方向性に持っていきけるのか。PRも含めて何か考えているのか。

道路公園課長

・7番。当課としては、わんぱく王国は指定管理に出していて、安全に使用していただくことが最大の目的。小学生といった子どもをターゲットとしているかについて、コロナ禍前は、個人利用よりも、秋の遠足のシーズンに、阪南市以外の小学校の児童が大勢来場しており、遠足のスポットとしては人気があった。その子どもたちが大きくなり。自分たちの子どもを連れてきていただければと思っている。PRは特にしてない。把握はできていないが、電車でも来られているため、わんぱく王国に小学生はかなり来ている方だと思っている。

委員

・観光事業の一環としてということで、回答者が違うため担当がおそらく違うと思われるが、一緒になって提案していくことを検討していただきたい。

委員長

・委員から預かりの事前質問について。当日質問として配布しているが、そのうち質問番号 11 番と 13 番の回答が空欄。現時点ではいかがか。

まちの活力創造課

・11 番、イベント参加者総数の基準について。先ほどの説明のとおり、本指標は平成 31 年度に実施したイベントを基準に位置付け、その参加者の総数を目標値として設定。令和2、3年度はコロナ禍に伴い、基準とするイベントについては中止の判断をした。それでも数字が上がっているところは、平成 31 年度に基準と設定していながらも、その時点では参加者を把握できていなかったイベントもあり、数字としてはこのような形。令和4年度以降は、コロナ禍の収束に伴い、交流人口やインバウンドの回復が見込まれる状況の中、観光庁の補助金を活用した事業を注力して展開。全体としてのイベントの参加者数の実績は、指標としてはない。個別ではあるが、令和 4 年度に実施したカキをメインに PR を進めるためのカキフェスティバルには約 3,000 人の集客、阪南食材月間としては 1,480 人の参加者、令和 5 年度に開催したはんなんグルメエキスポは約 5,000 人の集客などの実績がある。

副委員長

・目標値が 10 万人であるが、イベントごと目標値はあるのか。

まちの活力創造課

・平成 31 年度のイベントの総合計が 10 万であったことから設定。各イベントの目標値設定はしていない。

副委員長

・11 番については、「わからない」ということか。

まちの活力創造課

・そのとおり。

委員長

・13 番の回答もお願いします。

まちの活力創造課

・13 番。「阪南市観光ツアー『体験プラン編』』というコンテンツを、阪南市観光協会ホームページに掲載。そこには浪花政宗酒蔵、本宅見学、現時点では未掲載だが、期間限定イベントとして JR ふれあいハイキングなどがあり、これらの参加者はほぼ横ばいの状況。販路の拡大について。観光協会のランキング機能に翻訳機能を備え、訪日外国人に向けて情報を発信。単に情報を掲載するだけでなく、より訴求力がある仕組みのを構築が大切だと考えている。引き続き、観光 DMO である KIX 泉州ツーリズムビューローなどと連携しながら、広く PR を進めていきたい。

委員長

・他に追加質問はないか。

委員

・特にはない。

委員長

・状況は大体理解できたが、追加で質問。

・説明の中に移住定住につなげるとあった。今年度はシティプロモーションの施策も評価対象となっているため改めて質問させていただきたい。交流や関係人口・交流人口を増加、その先に移住定住を見据えている以上、観光の施策とシティプロモーションの施策は切っても切れない重要なつながりがあると思う。担当が異なるが、どのように役割分担して連携協力しているのか。具体例があれば、それを挙げて説明していただきたい。

まちの活力創造課

・観光施策と移住定住の連携についての具体例として、今年7月に梅田の地下街ディーズスクエアで、阪南市の地場産品のPRイベントを実施した際の話。シティプロモーションの職員が当課と同行し、物産の販売とともに移住定住のブースを設けて相談会を行った。また、観光施策の周知として、シティプロモーション推進課が所管する広報はんなりやホームページ、SNSでの発信があり、職員間で連携しながらタイムリーな情報を更新している。

委員長

・イベントの参加者総数について。数値がどのようなものかは理解できたが、例えば令和5年度でのイベントは、トータルでどれくらいの参加者かはすぐに出るのか。経年変化を見るために基準を設けるのは重要だと思うが、新しいコンテンツを作っている中、トータルでの参加数の視点があってもよいのではないかと。今すぐわからなければ、後日、どれくらいの方々がイベント等事業に関わっているかを教えていただきたい。可能であれば、何年分かの推移がわかるもの。トータルで増加していれば、前向きに進んでいると判断できるのではないかと。無理のない範囲で数字を教えていただければ有り難い。

・他に追加質問はないか。

委員

・質問ではないが提案。パンフレットも非常に素敵だが、インバウンドとファミリー層がターゲットであれば、関西空港や匠のippinに阪南市ガチャを置いてはどうか。子どもはとにかくガチャガチャが好き。またガチャガチャは日本特有のもののため、関西空港で小銭が余ったために、海外の方がそれを利用する話もよく聞く。デザインが大事になると思う。BEAMS Japan・中川政七商店のデザインは海外にも受けていて、現在も伸びているブランド。ガチャガチャをパンフレットと一緒に置けば、より認知度が広まり、SNSでも拡散されるのではないかと。

委員長

・阪南市に限らず、広域で協力していけば更に大規模にできるかもしれない。

委員

・関西空港が最もよいと思うが、ホテルなど様々な場所に設置できるといったため、ガチャガチャは手っ取り早い方法と思った。

委員長

・遊び心を加えながらPRすればよいのではないかとということかと思われる。これからも多くの機会があると思うため、うまく取り入れながら、観光の振興に努めていただきたい。

・これで、観光の振興についての質疑は以上。ヒアリングを終了。

○都市基盤の形成と維持管理(510)

委員長

・都市基盤の形成と維持管理510について、都市整備部の道路公園課から説明を。

道路公園課長

・都市基盤の形成と維持管理について説明。

・施策のめざす姿として、市民は、適切に維持管理された道路や公園を安心して利用している。

・取組方針として、市民が安全に安心して通行できるよう、橋梁長寿命化修繕計画、道路舗装維持管理計画、公園施設長寿命化計画による施設更新や維持管理を行っている。

・施策概要として、市認定道路約210km、都市公園29か所、児童遊園67か所、その他の施設1か所を維持管理しているところ。公共施設の老朽化が問題となっていて、新認定道路及び公園については計画的に維持管理を行うこと、またその費用の平準化を目的に、平成25年度に阪南市橋梁長寿命化修繕計画、阪南市道路舗装維持管理計画、平成27年度に阪南市公園施設長寿命化計画を策定し、維持管理に努めてきた。景観的な部分では、自治会やアダプト制度により、草刈や樹木の剪定などの軽微な時間管理に参加していただいている。

・成果指標について説明する。

・一つ目。ONE ACTIONとして、利活用の少ない児童遊園について。アダプトプログラム(まちの里親制度)を利用して管理者を募集するとともに、利活用を図ることを目的としている。

・二つ目、平成27年度からの道路舗装長寿命化修繕計画に基づいた舗装整備率について。市認定道路210kmの舗装耐用年数を15年として計算すると、平均、年14kmの更新が必要となるが、上水道、下水道、ガス、NTTなどの各専用事業者の更新事業で、約半分の7kmを更新していただき、市単独で7kmの更新を行っていくことを目標としている。それに対し、平成30年度と令和元年度は財政事情より、更新工事を中断した。令和2年度から再開に当たり、財政の都合から年4kmほどの修繕となった。以上より、目標に対して実績が下回っている。

・三つ目。阪南市アダプトプログラムの認定団体数は、平成15年度の制度開始以来認定団体を伸ばしてきた。しかし令和2年度に、制度上5名以上必要としている構成員数が高齢化により維持できないとの理由から、指定解除の申出があり、団体数は減少している。

・内部評価について。市民の生活環境(道路・公園・緑地等)への適切な維持管理が求められている中、公園等の清掃についてはアダプトプログラム認定団体を退会する団体が徐々に増加しているが、公園等の美化作業をしていただいている状況。都市基盤施設の特に道路については、市民の生活に必要不可欠であり、道路舗装長寿命化修繕計画に基づき、保存整備を継続的に実施することができた。整備率を少しずつではあるが増加することができた。日常的な施設の補修等の維持管理についても、限られた財源の中で市民の要望に応じることができている。以上より内部評価としては★1。

【質疑応答】

委員長

・それでは、順に質問していく。

副委員長

・5番から7番まで質問したが、その補足質問。

・6番について。物価高や人件費の高騰より、道路整備が難しくなっている中で、優先順位の決め方を教えていただきたい。

・5、7番に関連するかもしれないが、アダプトプログラムの担い手の不足について。自治会等に相談が

今後の取組という回答だったが、自治会の活動も活発ではない中で、大丈夫なのかと思った。他の方策があれば教えていただきたい。

道路公園課長

- ・道路の優先順位について。計画で5年計画を立てている。最も悪いところから順番をつけている。
- ・地区ごとに取り組んでいるため、地区全体としてあまり悪くないところでも進んでいくこともあれば、地区全体で悪いところが多くなかなか進まないと感じられるところもある。計画策定は、委託業者に委託していて、車で走って悪いところを機械的に判定。公平に測定し、5年計画の中で修繕の順番を決め、悪いところを優先して修繕している。
- ・アダプトについて。自治会に相談するというのは、既に公園自体を掃除や草刈りしてくれる自治体もあるが、一番は、見てくれる人を紹介してくれないかというところ。公園を例にすると、市が掃除や草刈りをするの当たり前という人が多い。その中でも興味があれば、花畑にしたり、机と椅子を置いて、休憩や昼食の場所として使っていただいたりしているところもある。ただ、最近は昔と異なり厳しくなっていると実感している。

委員

- ・大きく二つ追加質問。
- ・一つ目、児童遊園に関して。利活用などのあり方の検討した児童遊園数の実績値がないということで何か1件でもあればと質問。回答が記載されているが、児童遊園の活用の仕方、自治会から花畑や机を置くという提案は何件くらいか。

道路公園課長

- ・5年から10年ぐらい前の話だが、単なる掃除・草刈りだけではなく、春に花見をしたいので机を置かしていただきたいという相談があり、アダプトプログラムを案内し、制度を利用した方がいる。芝生を植えたり、机を置いて日陰を作ったりしている方もいる。アダプトはわずらわしいと登録せずにボランティアをしている方もいる。登録依頼やそのような相談もしている団体もあるため一概には言えないが、過去に約2件はある。過去の話なので、実績にはカウントできないと判断。
- ・アダプトをしていただくことにより、自由に使っていただくのが最大の目標。自治会でも駄目な場合、最終手段として法律に触れない範囲で売却を考えなければならない。

委員

- ・二つ目。14番、達成率について。道路舗装長寿命化計画に基づく舗装面積が70%は、5年計画の中での70%という意味か。

道路公園課長

- ・人件費や材料の高騰などにより、その年の予算で70%しかできなかったという意味。

委員

- ・財政の問題により70%しかできなかったということか。予算が減ればできないものか。例えば業者に値段が上がっているのに駄目と言われても、交渉できる余地はあるのではないか。

道路公園課長

- ・基本的には、予算によって、延長が短くなる。予算に合わせた設計となるもの。

委員長

- ・それはハード事業の難しいところ。ソフトとはまた異なると思われる。

委員

・職員の頑張りをきちんと評価したい。達成率が70%では評価できないになってしまうため、その中でも、頑張られたことを言っていたきたい。

道路公園課長

・令和6年度は予算要求を頑張り、距離、面積を計画通りにできそうな昨年の1.5倍の予算を得た。

委員

・10番から11番を質問した。

・メインストリートの整備計画があるかどうか。道路上のサインが消えているということもある。自転車に乗りたくなるような都市整備はどのぐらい進んでいるかを質問した。回答では、整備計画がなく、ポストコーンや柵などの安全対策をできるだけ考えるということだが、道幅を広くするのは難しくても、柵やポストコーンの設置はすぐに進められるようなものではないか。

・先ほど回答のあった、「悪い道路から優先して修繕する」ことについて。その中でメインストリートの位置付けや市民からの苦情が来ていないかが気になった。阪南市に住まわれている知人や近隣からもメインストリートが通りにくいと言っていたこともあり、実際にその声がなかったか気になった。

道路公園課長

・道幅は決まっているため、安全のために、車と歩行者、自転車を区別できる広さを取るのであれば、一方通行化しかない。尾崎の一方通行だけでもかなりの反響があった。一方通行は警察の規制にもなるので、歓迎されない傾向にある。広さの確保は用地買収の話になるが、予算もあるため、ほとんど無理だと考えられる。したがって、委員のご意見について考えると一方通行を検討することになると思うが、病院があるため、問題があると思う。阪南市はどこも道が狭いため、難しい向きが多い。

委員

・柵やコーンの設置に関してはどうか。

道路公園課長

・柵やポストコーンの設置は、安全対策の相談を受けて、効果があると判断した場合は対策として設置。また溝に関しても基本があるが危ないので安全対策をという相談があつて、効果があると判断した場合は対策をしている。

委員

・溝に蓋をするのも同様の判断か。

道路公園課長

・管理の観点から、溝の広さ・深さに基準があり、深くない溝はオープンが基本。全ての溝に蓋をすれば管理が難しくなる。危ないと判断して、基準に満たした場合は蓋をしたり、蓋ができない場合は柵で安全対策をすることもある。

委員

・8、9番について質問したが、改めて追加質問。

・8番。回答には「自治会や学校等からの要望には、警察や大阪府等の関係機関」とあるが、「大阪府等」の「等」は他にどこを指しているのか。

道路公園課

・阪南市では国道もあるため、国。

委員

・国との調整という意味か。

道路公園課長

・そのとおり。

委員

・研修会や講習会も国と調整したのか。

道路公園課長

・そのとおり。

委員

・8番に関しては、承知した。

・9番。質問した理由は、市役所の前にコンビニがあり、その斜め前に大きなマンションがある。マンション前の道路が取り締まりのスポットとなっており、そこに警察官がいるのをよく見かけていた。過去に、停止線が消えかけていた際、取り締まりがされており、警察官に停止線がわかりにくいことを話すと、2か月後にはきれいに整備されていたことがある。あの時は偶然警察官がいたのでよかったが、またそのようなことがあった場合、市役所に言えば警察と連携していただけるのか。

道路公園課長

・停止線や横断歩道は警察の管轄だが、市民にはどの線がどこの管轄かわからないため、市役所に直接言う方もいる。「要望があった部分だけするというのは不経済なので、半年に1回消えているところを集めて、まとめて発注している」と警察から聞いたことがある。

委員

- ・回答に、交通安全施策設置事業として自治会等の調整とあるが、そこから要望があれば生活環境課と連携して体制をとっていると記載がある。
- ・自転車を含めた交通安全の研修会などの要望に関する提案をしているか聞いたかった。生活環境課の問題だと思っているが、今後、道路公園課が関わるのか気になる。
- ・道路が狭いため、自転車専用道路や歩行者道路をすべて作るのは難しい。そのような意味では運転者や歩行者のいわゆる基本レベルの常識を徹底するという部分もソフト面では必要。今後自治会などでも意識高いところでは交通安全研修会のニーズがあると考えられるが、要望を待たず提案をすることを考えているのか。

道路公園課長

・現在では要望が先行。生活環境課を通じて当課に、交通安全の具体的な提案がある。

委員

・自治会から提案があるのか。

道路公園課

- ・自治会からの要望は、どの地域も継続的・単発的にある。安全対策をしていただきたいというような要望で、自治会単位の場合も個人の場合もある。
- ・ハード面の整備について、道路の柵の設置依頼や柵では危ないため蓋やポストコーンでできないかの相談については当課で考えさせていただく。自治会での注意喚起といった啓発的な部分や雑草などで見通しが悪いというソフト面は、生活環境課や都市整備課という担当部署がある。防犯や通行の安全の見通しのよいような道路にすることでそれらの課と連携を図っているところ。

委員

・自治会として停止線や横断歩道を引いていただきたいという要望はどこに言えばよいのか。

道路公園課

・停止線や横断歩道といった通行規制に関する表示は泉南警察署。ただ、市民はどこの管轄の線かわからない。当課にお声をいただければ、当課から泉南警察署に伝える形で対応。市民の声は、国や府、警察に当課からその都度伝えている。

委員長

- ・大きく二つ、追加質問。
- ・各事業の予算を見ていると、道路改修の経費。これは舗装工事のことか。

道路公園課

・舗装工事と共同の修繕工事、共同点検等のこと。

委員長

・維持管理の事業費は、先ほど話題になっていた要望に対応するということか。

道路公園課

・維持管理は草刈りなどの保守部分が主である。

委員長

- ・日常保守ということか。承知した。一つ目の質問が、要望が増加傾向にあるとの記載のため、それに関して数字的には何かわかるか。
- ・もう一つは、道路舗装長寿命化計画に基づく道路の舗装整備の優先順位について。説明の中に、地区別に悪い方から順番にとあった。悪いものが残る地区が出てくるとのことだが、どのような意味か。

道路公園課

・地区全体が悪い場合でも、地区単位で悪いところから行っていくという意味。

委員長

・地域によって差は出てくるのか。

道路公園課

・舗装の修繕計画は、自動車で市内の法定道路を走って、ひび割れやわだち等の損傷状況を機械的に判断し、その評価をもって、直す路線と長さやエリアを決めている。舗装の工事については市内を10地区に分け、地区ごとに発注している。5か年計画のため、5年経つと、車両による測定、状況を調べて判定の変更を再びするという事となる。

委員長

・家の前を直していただきたいという声があった場合は。

道路公園課

・その道路が計画に入っているところで、状況を調査して悪いとわかれば、優先順位を上げるという対応を行っている。

委員長

- ・委員各位、他に追加質問はないか。
- ・これでヒアリングを終了。休憩終了後から、案件4の判定区分等についての協議を実施。ヒアリングした二つの施策について、判定や根拠、理由を説明できるように、簡単に準備していただきたい。

4. 判定区分等についての協議 (非公開)

5. その他

委員長

- ・本日、追加資料を事務局からいただいている。前回までの施策に関係して、資料を三つ用意。それぞれ、企業版ふるさと納税に係る追加資料。子育てアプリ。不登校率のデータ。
- ・判定を考える上での活用資料となるため、事務局に説明していただこうと思う。

事務局

- ・企業版ふるさと納税に係る追加資料について説明。
- ・令和5年度実績における府内での状況について。一覧に40市町村掲載しているが、阪南市の寄附額は40市町村中9位。実績の無い市町村が多いため、この結果となったと認識している。
- ・米印より、人材派遣型(企業が人件費を負担し、市町村に社員を派遣する)という制度があるが、全国では84団体。大阪府では10団体利用しており、阪南市は利用している団体の一つ。
- ・トップセールスの状況だが、令和5年市長が上京し、トップセールスを実施。令和6年度ふるさと納税の獲得につながった。その他、未来創生部長を中心に、つながりがある企業へのセールスを随時実施。
- ・その他。企業版ふるさと納税のうち、人材派遣型の利用団体について、令和5年度に本市は外部人材を2名受け入れた。説明は以上。

委員長

- ・外部人材を2名受け入れたことについての詳細を。

事務局

- ・第一生命株式会社から2名受け入れ。
- ・主な取組内容が、令和5年度にスマートシティの推進計画を策定。共創チャレンジ、万博に参加するため、会場の調整等といった万博の取組。

委員長

- ・承知した。では次、子育てアプリについて説明をお願いします。

事務局

- ・はんなん子育てアプリの概要及び現状についての資料を説明。
- ・電子母子手帳を中心としたアプリということで、自治体ごとに設定しているもの。類似のアプリが他市町でもリリースされている。
- ・現状だが、母子健康手帳機能を中心に、子育て支援機能を備えている状況。またプッシュ通知により予防接種やイベント情報などのお知らせを通知している状況。
- ・広報について。に妊娠届や出産後の新生児訪問、乳幼児健診の実施時にチラシを配布。比較的市民の意識が高いところ、目につきやすいところでのチラシ配布が主。
- ・参考登録率を記載。登録数において母数をどこまでとするか議論の余地はある。仮に予防接種の多い1歳児までを母数とし、登録率はおおむね63%と記載している。説明は以上。

委員長

- ・対象は18歳以下か。

事務局

- ・担当課に伺ったところ、区分としては就学前までをメイン。電子母子手帳機能が中心となるため、やはり低年齢層となる。

委員

・令和6年4月時点の登録者数272人について。この数値は、保護者や祖父母がそれぞれ登録している可能性はあり、前に説明していた。子どものうち63%が登録しているという意味ではないということか。どれぐらいかはわからないが、そこは含まれているという意味か。

事務局

・お見込みのとおり。登録者数をアカウント数と読みかえた方が正確かもしれない。

委員

・子どもの名前を入力する項目はないのか。

事務局

・生年月日の項目はあると聞いている。

委員長

・アプリはいつリリースされたのか。

事務局

・令和5年の6月1日から。

委員長

・1点のみ確認。

・メインターゲットは母子手帳が必要な年代だが、子育て支援機能がある。令和5年6月1日より前に子どもが生まれた家庭にも知っていただければよいと思ったが、その方々に対する広告は。

事務局

・今回資料作成にあたり、アプリを所管し、母子保健を担当している健康増進課から情報を収集した。子育て施策を所管しているところが、当アプリについてどのような広報をしているかの質問であれば、申し訳ないが今回は反映できていない。

委員長

・反映できていないのは問題ない。これをどのように私たちが考えればよいかという点でまだ腑に落ちない。割り切って令和5年度から生まれた子の両親だけ利用すればよいと言い切れるのであれば、それでよいが、そうではなさそうなのでどうしたらよいかと思っている。他に質問はないか。

・では次、不登校の話をお願いしてもよいか。

事務局

・「不登校率」の全国平均等との比較について。最新のデータは令和4年度のため、全国平均・府内平均は令和4年度のみ。

・不登校の比較だが、令和4年度では小学校・中学校とも、全国平均・府内平均に比べて阪南市の不登校率は下回っている。令和5年度について、阪南市では増加傾向。現時点で全国平均・府内平均はわからないが、下の「参考・令和5年度大阪府総合教育会議資料抜粋」のグラフより増加トレンドにあるのは間違いないのかなというところ。説明は以上。

委員

・近隣自治体の分はあるのか。

事務局

・公表資料では見つけられなかったため、府内市町村の平均というところできらせていただいた。

委員長

・不登校率は全国平均、府内平均よりは低いが、増加傾向にあるのが阪南市の現状。よく理解ができた。他に確認したいところはあるか。

委員

・企業版ふるさと納税の寄附企業について。寄附額が1,880万となっているが、6社が寄附した合計額という意味か。

事務局

・そのとおり。

委員長

・3件とも追加資料により大きく印象が変わることはなさそうな気はするが、この情報を基に、次回、判定結果等々の取りまとめの際における議論の参考にしていきたい。

・事務局、その他に案件はあるか。

事務局

・案件、その他について。

・次回にあたる第5回外部評価委員会については、9月19日18時から全員協議会室で開催。

委員長

・答申について、スケジュールを確認。答申を作成するには、一度事務局と委員長で調整しなければならない。その結果を委員各位に送付する必要があるが、皆の予定もあるため送付日を決めなければならないと思った。委員各位、週末を挟む方がよいか。

委員

・13日がよい。

委員長

・承知した。では、答申に関する委員長との調整結果は、各委員へは9月13日までに送付できるように対応する。精査の上、19日に開催する第5回外部評価委員会に臨んでいただきたい。事務局もよろしく願います。

・以上で本日の案件がすべて終了。

・これをもって、第4回阪南市外部評価委員会を閉会する。残り1回だが、よろしく願います。

以上